

# ChibaTech News

No\_700

2025年11月号

千葉工業大学 入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344



## 台湾・国立成功大学 蘇炎坤院長・周明奇副院長が来学 最先端半導体技術の展望を語る特別講演会を開催



学問振興と学術的協力の促進などを目的に3月、本学と包括連携協定を締結した台湾・国立成功大学(台南市)の蘇炎坤・半導体学院院長、周明奇副院長による特別講演会が10月15日(水)、津田沼キャンパス2号館3階大教室で行われた。会場には学生・教職員約260人が参加し、最先端半導体の「今」に耳を傾けた。

瀬戸熊修理事長ら本学関係者も注目する中、来賓として挨拶に立った国家基本問題研究所の櫻井よしこ理事長は、「半導体はすべてをコントロールするツール」と述べ、半導体を通じた日本と台湾の緊密な関係構築の重要性を語った。



櫻井国家基本問題研究所理事長

大きな拍手を受けて登壇した蘇院長は、「挑戦と未来 日本と台湾における半導体技術の展望」と題した講演で、まず本学と成功大学がより緊密に連携することで、将来的な日本の半導体産業の発展につながるとの強い確信を示した。



蘇院長

蘇院長は、会場の大型モニターに映し出した資料を用いながら半導体技術の発展と将来展望について解説し、「どの業界・産業であれ、AI技術を融合させなければ発展せず、革新も生まれない」と指摘した。世界的な半導体需要の増加を踏まえ、重要度が増す技術のポテンシャルについて説明すると、学生たちは熱心にメモを取ってい

た。続いて、超電導・次世代半導体などを専門とする周副院長が「AI時代におけるクリスタルの役割」と題して講演を行った。「現在は誰もが半導体とAIを学びたいと考えている。しかし、注意すべきは、すべてのテクノロジーにおいて最も重要なのはエネルギーを供給・確保できるかという点だ」と述べた上で、「すべての技術の基盤となるのはコンピューティングであり、私たちは世界で初めてクリスタルを用いたAIを提唱した」と語った。さらに、サマースクールなどのさまざ



周副院長

【P2】高度技術者育成プログラム4号機『BOTAN』運用初日に初期ミッション達成／モンゴルの子どもたちへiPad800台を寄贈

【P3】ISS「きぼう」での材料研究に本学参画／2025年度グッドデザイン賞で建築学科・金子尚志研究室の学生がデザ

イナーとして携わった住宅が受賞

【P4】視線の動きと瞳孔の変化からADHDを客観的に評価／未来ロボティクス学科チーム、AI-Formulaプレーリーズ大会で2冠達成

【P5】第61回スポーツフェスティバル開催／学友会主催「クリーンウォーク」開催

【P6】吉田さん・宮下さん・國澤さん「ビギナー部門 予選第2位・決勝第3位」ほか受賞／新井さん「優秀賞」／松田さん「優秀発表賞」／大浦さん・石田さん「千葉工業大学会場1位」ほか受賞／津田沼駅開業130周年記念イベントによるソーラン風神部

【P7】千葉工業大学決算(令和6年度)を承認／学生共済会予算・決算を承認／キャリア形成支援特別講演会／就職・進路支援便り

まなプログラムを通じて成功大学で関連知識を学ぶ機会を提供したいと呼びかけた。

その後の質疑応答では、機械電子創成工学科の男子学生が「日本と台湾の双方がより発展するために日本企業に求めるものは何か。もし日本の学生が台湾の企業に就職する場合、どのような学生を求めているのか」と質問した。これに対し、蘇院長は「日本と台湾は非常に協力関係にある。日本の強みは設備と材料であり、技術交流も盛んに行われている。将来、半導体産業に携わりたいのであれば、成功大学の学科や研究所の院生として学ぶことを歓迎する」と答えた。



質問する電電の学生

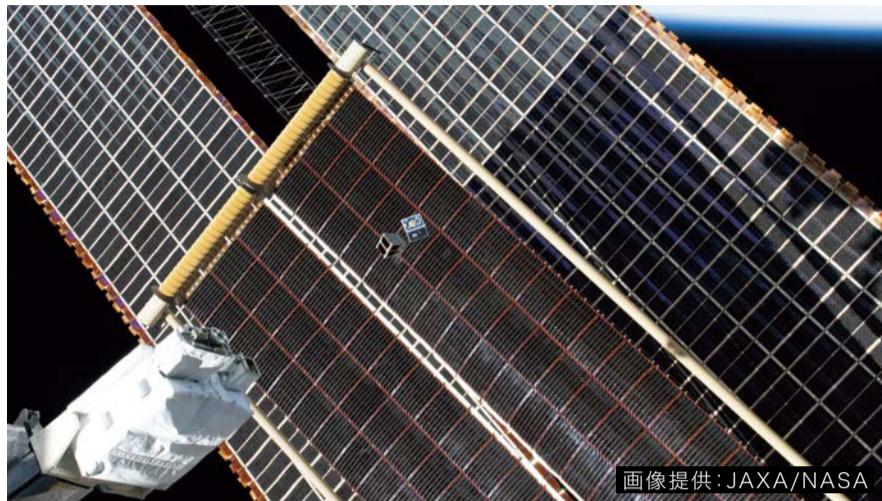
また、電気電子工学科の男子学生からは「データの質はある程度であれば問題ないと思うが、単結晶に近い物質の場合、質を求める際にAIによる測定誤差が避けられない。その誤差をどの程度まで許容できるのか」との質問があった。これに対し、周副院長は「さまざまなパラメーターが実際の合成過程に影響を及ぼすため、限界がある。AIだけに頼るのは難しく、直感も重要だ」と述べた。

### [ CONTENT ]

を承認／学生共済会予算・決算を承認／キャリア形成支援特別講演会／就職・進路支援便り

【P8】地域と学生がつながる「Co-展2025」倉庫研究室が今年も参加／津田沼ハロウィンパーティー2025に本学も協力／10月のできごと／12月のスケジュール

## 高度技術者育成プログラム4号機『BOTAN』運用初日に初期ミッション達成 4機連続成功の快挙



画像提供:JAXA/NASA

国際宇宙ステーション(ISS)から放出される『BOTAN』(左)  
ISS滞在中の油井亀美也宇宙飛行士が撮影

本学4年生が製造した超小型衛星4号機「BOTAN」が、2025年9月15日(日本時間)に米国スペースX社ファルコン9ロケットで打ち上げられ、国際宇宙ステーション(ISS)に輸送された後、10月10日にISSから放出・軌道投入された。「BOTAN」は運用初日という異例の速さで初期ミッションを達成し、本学が2021年度から実施している「宇宙産業を支える高度技術者育成プログラム」のもとで製造され

た衛星は、4機連続で初期ミッション成功を収めるという快挙を成し遂げた。

「BOTAN」は、2023年4月に当時の学部2年生が製造を開始した10cm四方の1Uキューブサット。ISSから放出後、撮影した画像を地上で復元するというミニマムサクセスレベル(最低成功条件)を達成し、APRS(位置情報発信システム)を用いた一般アマチュア無線家へのメッセージ送信も成功。さらに、出

光興産株式会社との共同ミッションとして、同社開発の新しい衛星用太陽電池セル(CIGS)の宇宙実証にも成功した。

また、「BOTAN」は新機能として、ISSから放出後すぐにライブ中継の映像により動いているかどうかが一目でわかるようLEDを装備しており、見事に点灯が確認できた。このLED点灯はSNSで大きな話題となり、JAXAやISS滞在中の油井宇宙飛行士も「グッドアイディア」とコメントを投稿した。

今後数ヶ月の間、「BOTAN」は、オーロラの観測と太陽フレアの影響調査、アメリカ・サウスダコタ州のトウモロコシの生育状況調査、海底火山噴火時の軽石の調査、ジャイロセンサを用いた衛星姿勢情報の収集といったミッションに挑む予定。「BOTAN」プロジェクトマネージャーの水落涼さん(電電4年)は、「衛星からの信号を聞いた瞬間は非常に感慨深いものがあった。最後に牡丹の花のよう

な大輪を咲かせる結果となるよう、本運用に取り組んでいきたい」と意気込みを語った。

4機連続の成功は、このプログラムの目標である「確実に動く衛星を作れる高度技術者の育成」が着実に成果をあげていることを証明している。



「BOTAN」が撮影した地球  
オーストラリアブリスベン上空



BOTANプロジェクトメンバー

## モンゴルの子どもたちへiPad800台を寄贈 本学の学習支援プログラム、海外支援を継続

本学は、2025年10月7日、モンゴル国教育省において、同国の子どもたちへiPad800台を寄贈した。寄贈先は、首都ウランバートル市、アルハンガイ県、オブス県などの学校28校であり、その中には、去る7月に天皇皇后両陛下が御訪問されたウランバートル市ゲル地区の第149番学校および聾哑学校2校も含まれている。

モンゴルへのiPad寄贈は今年2回目であり、2025年1月には550台を同国の学校へ提供している。いずれの取り組みも、モンゴルの教育現場におけるIT機材不足の解消と、学習環境の改善を目的としている。

今回の寄贈に際しては、教育省で開催された寄贈式において、前田修作常務理事が本学を代表して出席し、首都ウランバートル市アマルトゥブシン教育長およびアルハンガイ県ツェレンナドミド知事と

覚書に署名した。式典には、ナランバヤル教育大臣、本学審議役:清水武則氏(元駐モンゴル日本国大使)らが陪席し、今後の教育分野における協力関係の強化を確認した。前田常務理事は、「本学が長年取り組んできた学習支援プログラムを通じて、子どもたちがデジタル技術に親

しみ、学ぶ喜びを広げていけることを願っている。今回の寄贈が、モンゴルの教育発展に少しでも寄与できれば幸いである」と述べた。

第149番学校のプレブスレン校長は、「天皇皇后両陛下を学校にお迎えするという光栄に続き、今回子どもたちのIT教育の推進のためにiPadの

寄贈を受けたことに深く感謝している。大切に活用したい」と感謝の言葉を述べた。

この度の寄贈式の様子は、モンゴル国営放送局(MNB)を始め、NTV、TV25、UBSなど全国放送各局でニュースとして紹介され、大きな反響があった。また、ナランバヤル教育大臣より、感謝の意が表明された。寄贈に用いたiPadは、昨年度まで全新入生に貸与していたタブレット端末が学生の卒業に伴い大学に返却されるのを機に再活用している。これまででも、国内の自治体や包括連携協定を締結している高等学校へのiPad寄贈を通じて教育支援を行ってきたが、この取り組みにより、海外支援としての活動を継続・拡充することになった。

今後も、教育を通じて国際社会に貢献し、持続可能な未来の実現に寄与していく。



左から清水審議役、ナランバヤル教育大臣、前田常務理事

## ISS「きぼう」での材料研究に本学参画 学生デザインのシンボルも採用

JAXA(宇宙航空研究開発機構)による国際宇宙ステーション「きぼう」での材料研究テーマ募集において、先端材料工学科・小澤俊平教授の提案「酸素の影響を考慮した表面張力測定法の評価とその応用」が選定された。サンプルはドラゴン補給船運用33号機(SpX-33)によって、2025年8月24日15時45分(日本時間)に米国フロリダ州 ケープカナベラル空軍基地40番射点から打ち上げられ、2025年8月25日20時05分(日本時間)にISSに到着。宇宙実験は2026年春に実施予定となっている。

高温融体の表面張力は製造プロセスや新材料開発に

大きく影響するが、酸素濃度のわずかな変化にも敏感であり、従来は信頼できる基準データの取得が難しい課題となっていた。

今回の実験では、重力や酸素の影響を排除した測定を実現し、世界最高精度のデータ取得を目指す。成果は溶接や鋳造、3Dプリンティングなど多様な産業分野の高度化に寄与し、省エネルギー化やCO<sub>2</sub>排出削減といった社会的課題の解決にもつながることが期待されている。

小澤俊平教授



デザインコンセプト「太陽の羅針盤」  
闇を照らす熱波はある一点を  
起点とする

### デカールデザインに 松崎研が協力

さらに、本プロジェクトの象徴となるデカール(ステッカー)のデザインは、デザイン科学科・松崎研究室の学生が担当した。研究プロジェクトを多くの研究者が共有できる「シンボル」と位置づけ、学生たちが複数案を提案。

その中から岸田樹さんによる「太陽の羅針盤」をコンセプトにしたデザインが採用された。学内で培ったデザインの力が最先端研究と結びついた取り組みは、学生にとって貴重な経験となり、学際的な連携の意義を示すものとなっている。



このプロジェクトの詳細な研究内容やデザイン制作のエピソードは、本学公式ウェブサイトにて紹介。

詳細は  
コチラ



岸田樹さん

## 2025年度グッドデザイン賞で建築学科・金子尚志研究室の学生がデザイナーとして携わった住宅が受賞！地域の風土を活かした設計が高く評価



入り口側が特徴的な南の全景

10月15日(水)に発表された2025年度グッドデザイン賞において、建築学科・金子尚志研究室の学生がデザイナーとして設計に携わった住宅「風環の家・パッシブデザイン奥州水沢モデル」が、住宅分野でのグッドデザイン賞を受賞した。

本作品は、千葉建設株式会社を事業主体とし、金子尚志教授(建築学科・株式会社クアトロ)がディレクターを務めた共同プロジェクトである。デザインには、金子研究室の杏掛涼太さん(修士2年)、佐藤孝太郎さん(同1年)、大山幹生さん、林原史聖さん、福林海斗さん(建築4年)が参加した。

金子研究室ではこれまでも、地域固有の文化や環境を建築デザインにどう活かすかをテーマに研究を重ねており、今回の「風環の家」もその実践として位置づけられる。学生たちは、

地域の気候や風土を「地域資源」と捉え、現地調査や住民ヒアリングを重ねながら、住宅がその土地に根ざすかたちを模索した。

設計過程では、研究室独自に作成した「リサーチブック」を用い、地域の歴史や風の流れ、日射条件などを整理。地域に息づく暮らし方や景観の特徴を分析し、「この土地ならではの住まいの姿」をデザインに落とし込んだ。住宅の特徴としては、南北に2つの吹抜け空間を設け、気圧差や温度差を利用して自然な空気循環を促す“風の通り道・風環”を設計した点が挙げられる。

また、道路に面した北面は屋根を葺き下ろす構成により、立面の大部分を屋根が占

める独特的な外観を実現し、周囲の街並みにも自然に溶け込むデザインとなっている。

金子教授は今回の受賞について、「学生が地域企業と協働し、建築を通して地域の価値を再発見できたことが大きな成果」と話す。



窓まわりのパッシブデザイン

設計を担当した修士1年の佐藤孝太郎さんは、「地域の暮らしや環境を理解しながら設計した住宅が現実に完成して嬉しい」と振り返る。受賞作品の詳細は、グッドデザイン賞公式サイトに掲載されている。

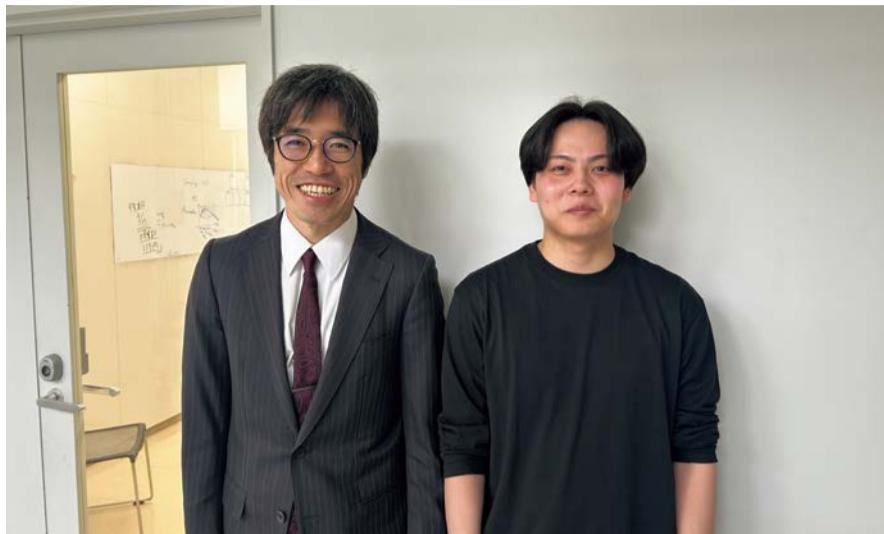
詳細は  
コチラ



左から金子教授、林原さん、福林さん、大山さん、佐藤さん、杏掛さん

## 視線の動きと瞳孔の変化からADHDを客観的に評価 千葉工大・名市大の共同成果を国際誌に発表

詳細は  
コチラ



信川教授(左)と上野さん

情報工学科の信川創教授と信川研究室の上野歩さん(修士1年)は、名古屋市立大学の白間綾准教授らと共同で、眼球運動(視線の動き)と瞳孔径(瞳孔の大きさ)を組み合わせて解析することで、成人の注意欠如・多動性障害(ADHD)を高精度で識別できる可能性を明らかにした。この成果は、米国の科学誌PLOS Mental Healthに10月9日付でオンライン掲載された。

ADHDは注意や衝動のコン

トロールの困難さを特徴とし、学業や仕事、日常生活に影響を及ぼすことがある。これまでの診断は問診や行動観察に頼る部分が多く、客観的で定量的な評価指標の確立が課題とされてきた。研究チームは、成人の定型発達者20名とADHDの診断を受けた16名(うち薬物未治療者11名)を対象に、アイトラッカーで固視課題中の眼球運動と瞳孔径を同時計測し解析した。その結果、ADHD群

では眼球運動の時間的な複雑性(動きの予測にくぎ)が有意に低く、瞳孔径が有意に大きいことが確認された。さらに、これら二つの指標を統合したモデルは、どちらか一方の指標のみを用いた場合よりも識別精度が高いことが示された。これらの成果は、非侵襲・短時間・低成本で取得可能な生理指標(眼球運動と瞳孔径)の組み合わせが、問診や行動観察を中心とする現行の診断を客観的・定量的に補助する手段として発展することが期待される。

今後は、より多くの被験者データを用いた検証を進め、年齢や治療歴、ADHDのタイプ(不注意・多動/衝動・混合など)を考慮した一般化モデルの構築を目指す。さらに、脳波やfMRIなど他の生理指標との統合によって神経基盤との対応関係を明らかにし、診断の客観性と精度を高める研究を進めていく予定である。

上野さんは今回の研究につ

いて、「視線や瞳孔といった身近な生体情報から、ADHDを客観的に理解するための手がかりを得られたことに、大きな意義を感じています。本成果は、信川先生ならびに白間先生のご指導・ご助言あってのものです。今後も生体情報をもとに、病態の解明や臨床応用を目指し、研究を進めていきたいです」と語っている。

信川教授は「発達障害の支援には、医療的な診断や治療だけでなく、教育的支援を含めた、本人やご家族の長期的なサポートが不可欠です。そのためには、臨床・教育・産業・行政が連携し、共通の基盤を整えることが求められます。今回のような非侵襲で客観的な生理指標の研究は、その連携を促す“支援への入り口”となり得るもので。今後は、さらに産学官医と地域の療育・支援の現場を結びつけ、研究と実践を往復させながら社会実装を目指していきたいと考えています」と述べている。

## 未来ロボティクス学科チーム、AI-Formulaプレレース大会で2冠達成



馬場さん(左)と山下さん

今年3月に、モビリティが自律走行でレースする技術チャレンジ「AI-Formula」プレレース大会で、未来ロボティクス学科(担当教員:林原靖男教授)のチームがベストラップ賞とベストタイム賞を獲得した。同学科のソフトウェア開発をはじめとする高い技術力が証明された形で、開発したソフトウェアはオープンソースとして公開されている。

AI-Formulaは、次世代モビリティを動かす自動化システム

の技術者を育成するためのプロジェクトで、計測自動制御学会と自動車技術会が主催し、本田技術研究所が支援する競技会に2024年度から未来ロボティクス学科も参加している。

レース型の技術チャレンジは、貸与された小型モビリティを指定のコースで自動走行させることが求められ、制御性を向上させるための改良や自動走行するソフトウェアの開発を約1年かけて行ってきた。AI-Formula

は実験する場所と機会が得られる点が他のプロジェクトとは異なり、モビリティを用いて屋外で自律走行を行うため自動運転技術の研究開発を実践的に学ぶことができる。

メンバーは、学部3年生から大学院2年生までの計9人。月1~2回はテストコースでの実験を重ね、今年3月に「AIモビリティパーク紫峰」(茨城県常総市)で行われたプレレース大会で1周約300メートルのコースを3周し、ベストラップ賞(39秒481)とベストタイム賞(1分59秒471)を獲得した。

自動走行するためのソフトウェアを開発した山下響さん(大学院修士1年)は「モビリティを制御するソフトウェア開発は初めての経験だった。試行錯誤しながら先輩方にもアドバイスを頂き、自動運転分野に関する知識を得ること



ができた」と振り返る。

ディープラーニングなど新しい技術を取り込み、ロボットを安定して制御する高い技術力に定評がある同チームは2026年3月頃に開催予定の大会でも優勝を目指している。馬場琉さん(同2年)は「AI-Formulaは時速30~40キロ程度のスピードを出せるモビリティを扱い、コンピュータの処理能力の高さなどが求められる。貴重な体験となっている」と話している。



未来ロボティクス学科チーム出走準備

## 第61回スポーツフェスティバル開催! 学生・教職員・留学生をつなぐ、笑顔と熱気の一日



シュート決まるか!バスケットボール

体育会本部(会長:小川智大・ともひろ 機械電子創成工学科4年)主催による「第61回スポーツフェスティバル」が、10月19日(日)に新習志野キャンパスおよび茜浜運動施設で開催された。

当日は一時的に雨が降り、競技が中断する場面もあったが、昼休み明けには全競技が再開され、計431名の学生が参加し熱戦が繰り広げられた。

競技は9種目におよび、バスケットボール、バドミントン、卓

球が体育館で、フットサル、ソフトテニス、ソフトボール、ビーチバレー、ドッジボールが屋外で実施された。



熱戦!ソフトボール



ビーチバレーに汗を流す

さらに7号館ではe-sports競技「大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL」も開催され、どの競技でもチームワークと戦略が光り、会場は大いに盛り上がりを見せた。



頭脳戦で盛り上がるe-sports

閉会式では上位チームの表彰が行われ、歓声と拍手が響く中、参加者の努力と団結が称えられた。

大会運営を担った体育会本部スポーツフェスティバル担当の学生たちは、競技運営のみ

ならずポスター制作やマニュアル作成、広報活動にも尽力した。主担当を務めた寒河江花佳さん(情報ネットワーク学科=NS3年)は、「天候が不安定で最後までやり遂げられるか心配もあったが、大きなケガもなく無事に閉会まで終えられて本当に良かった」と振り返る。

終了後には、フットサル参加者から感謝のメールが届くなど、イベントを楽しんだ声が多く寄せられた。

## 学友会主催「クリーンウォーク」開催 地域への感謝を胸に、学生130名が街を清掃



小雨の中での清掃活動

学友会執行委員会(会長:高野隼吾・NS4年)が主催する恒例行事「クリーンウォーク」が、10月25日(土)に開催された。当日は雨や曇りの予報で天候が心配されたが、130名を超える参加者が集まり、津田沼キャンパスから新習志野キャンパスまで、約3.5キロの道のりを歩きながら、地域の清掃活動を行った。

クリーンウォークは、日頃からお世話になっている地域へ

の感謝を込め、学生が主体となって通学路や周辺の清掃を行う取り組みで、当日は、ごみ袋とトングを手に、12のグループに分かれて各ルートを担当し、安全面にも配慮しながら作業を行った。

主担当の古戸稜空さん(知能2年)は、「数か月前から準備を進めてきました。当日は天候が不安で緊張もありましたが、無事にやり遂げることができて本当に良かったです」と達成感を

語る。活動中は、地域の方々から「ありがとう」「ご苦労さま」と声をかけられ、終了後、学生たちは「地域の方と話せてうれしかった」「街がきれいになって気持ちがいい」といった感想を述べていた。

クリーンウォークのほかにも、学友会では月に数回の「クリーンデー」や、毎月月末の土曜日に地域清掃を実施しており、日ごろから地域美化に取り組んでいる。

こうした活動はボランティアとして認定され、単位取得にもつながるため、積極的な参加を期待している。



清掃後、参加者全員で達成感を共有

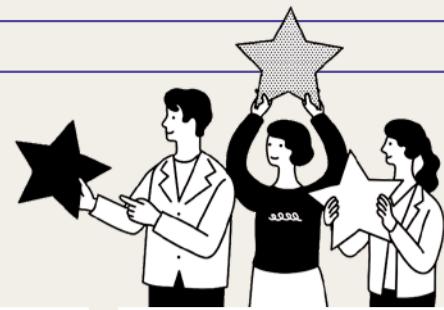


参加者全員で集合写真



挨拶をする古戸さん

# 受賞おめでとうございます！



一般社団法人  
日本航空宇宙学会主催  
第21回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト  
「ビギナー部門 予選第2位・決勝第3位」  
「ベストプレゼンテーション賞：  
日本タタ・コンサルタンシー・サービス賞」



学生が制作したポスター



日本海水学会 第76年会  
「優秀賞」

NaCl結晶蒸発晶析での  
結晶水分率に対する凝集度  
および結晶成長度合いへの  
結晶懸濁密度と  
夾雜イオン濃度比の効果



情報処理学会  
第44回 コンシューマ・  
デバイス&システム研究会  
「優秀発表賞」

人の組み合わせに基づいた  
気づきの生成に関する研究

みやした まい さん 宮下 真衣 さん	よしだ たける さん 吉田 尊 さん	くにさわ ま ゆ り さん 國澤 麻由莉 さん
デザイン科学科 1年	未来ロボティクス学科 3年	機械工学科 1年
航空工学研究会 Bulbous Bow (バルバスバウ)		
受賞日 9月28日		
詳細は コチラ <a href="#">▶▶▶</a>		

あらい る な さん 新井 瑞菜 さん	
応用化学専攻 修士2年	
工藤翔慈研究室	
受賞日 6月19日	詳細は コチラ <a href="#">▶▶▶</a>

まつだ たつき さん 松田 樹希 さん	
知能メディア工学専攻 修士2年	
森信一郎研究室	
受賞日 9月17日	詳細は コチラ <a href="#">▶▶▶</a>



千葉県オープンデータアイデアソン・ハッカソン  
「千葉工業大学会場1位」  
岩渕薬品「実現に向けてサポートしま賞」  
協同工芸社「協同工芸社賞」  
千葉銀行「ちばぎん賞」  
千葉興業銀行「ちば興銀賞」

習志野市地域経済循環型 ビジネス支援プラットフォーム そだつなら	おおうら そら さん 大浦 空 さん	いしだ ゆう さん 石田 悠 さん
知能メディア工学科 3年	未来ロボティクス学科 3年	
今野将研究室	米田完研究室	
受賞日 9月17日	詳細は コチラ <a href="#">▶▶▶</a>	

## 津田沼駅開業130周年記念イベント開催 よさこいソーラン風神部、 笑顔と躍動で地域に感謝を届ける

JR津田沼駅の開業130周年を記念して、9月21日(土)に津田沼駅北口およびイオンモール津田沼で記念イベントが開催された。地域とともに歩んできた津田沼駅の節目を祝う場には、多くの市民が訪れ、地元の中学校・高校・大学の学生によるステージ発表が行われた。

本学からは、よさこいソーラン風神部(主将:高橋蒼生・未ロ3年)が出演し、力強くも笑顔あふれる演舞で会場を盛り上げた。学生たちは色鮮やかな衣装を身にまとい、迫力ある掛け声と息の合った動きで観客を魅了し、津田沼駅前に活気を生み出した。通行人が足を止めて見入る姿も多く、演舞が進むにつれて手拍子と歓声が自然と広がった。

主将の高橋さんは、「日々利用し、私たちの

活動を支えてくださっている津田沼駅の大きな節目に、演舞で華を添えられることを大変光栄に思います。これまでの歴史への敬意と未来への祝福を込め、風神らしく全力で踊らせていただきます」とコメント。

当日はその言葉どおり、力強さと温かさを兼ね備えた全力のパフォーマンスを披露し、学生たちの熱い想いとエネルギーが華を添える一日となった。



観客を魅了する豪快な演舞

## 千葉工業大学 決算(令和6年度)を承認

本学理事会・評議員会で、  
令和6年度決算を承認した。  
令和6年度事業報告については、  
本学Webサイトにて公開。

詳細は  
コチラ



## 学生共済会 予算、決算を承認

本学理事会で  
令和7年度学生共済会予算案、  
令和6年度決算を承認した。  
詳細については  
本学Webサイトにて公開。

詳細は  
コチラ



## キャリア形成支援特別講演会 「デジタルカーがつくるSUBARUの未来」開催



熱心に耳を傾ける学生たち

9月25日(水)、津田沼キャンパスにおいて、本学就職・進路支援部と株式会社SUBARUの共同主催による特別講演「デジタルカーがつくるSUBARUの未来～アイサイト開発者が伝える『自動車開発の実際とこれからの技術、向き合い方』～」が開催された。講師は、同社執行

役員でCDCO(最高デジタルカー責任者)兼 技術本部副本部長、兼 SUBARU Lab所長を務める柴田英司氏。

柴田氏は、現在の自動車業界が「100年に一度の大変革期」にあると述べ、「SUBARUは“ものづくり”と“価値づくり”を両輪に時代の変化へ対応して

いる」と語った。代表的技術である運転支援システム「アイサイト」は、1990年代の研究を起点に1999年から本格開発が進み、2008年に製品化。現在では世界で550万台を超えるSUBARU車に搭載され、「交通死亡事故ゼロ」を目指す安全技術の社会的浸透を進めてきた。

また、SUBARUは2010年よりAI技術開発を強化し、2020年には渋谷に「SUBARU Lab」を設立。次世代アイサイトのAIアルゴリズムを内製化し、「2030年 交通死亡事故ゼロ」という目標実現に向けた開発を推進している。柴田氏は「SUBARU Labは未来のSUBARUを創る最前線である」と強調した。さらに、2024年からは半導体メーカーAMD社と協業し、独自設計の「ステレオAI」を開発中であることを紹介。

ステレオカメラ性能の飛躍的向上により、次世代アイサイトの進化を目指していると語った。

講演後半では、ソフトウェアによって機能が定義される「SDV(Software Defined Vehicle)」時代の展望にも触れ、「安全と愉しさを両立する“デジタルカー”の開発が価値創造の核になる」と述べた。AI解析による雪道走行データの活用や、ソフトウェア更新のみで機能を進化させる「統合ECU」など、最新技術の実例も紹介された。

最後に柴田氏は、「やり続けること」「世界に飛び出して五感で学ぶこと」「本質を見極め理想を描くこと」という三つのメッセージを学生に贈り、講演を締めくくった。参加者からは「最前線の開発に触れ刺激を受けた」「技術の裏にある情熱を感じた」との声が寄せられた。

## 【就職・進路支援便り】

### 学部4年生・修士2年生向け支援

#### ①学内合同企業説明会

千葉工大生を積極採用する複数の企業と会えるチャンスは12月5日(金)です。年内最後の機会を是非活用してください。実施時間等の詳細は、メール配信等でお知らせします。参加予約は、就職システム⇒支援行事の参加予約からお願いします。

#### ②オンライン相談会

引き続き、完全予約制のオンライン相談会を実施しています。企業紹介、選考対策、自己分析など、希望に合わせて対応可能です。詳細は既に配信しているメールを確認するか、就職・進路支援部までお問合せください。

▶開催場所：オンライン限定(ZOOM又はTeams)

▶服装：自由

▶就職・進路相談オンライン(2026年度卒限定)

予約フォーム

<https://vivit.video/f/57/it-chiba>

### 全学年向け支援

学内限定の「業界・職種・企業理解セミナー」および「オープン・カンパニー」は、12月までの実施です。千葉工大生の採用を検討している大手優良企業が参加し、業界や職種・キャリアパス・卒業生の仕事内容などをお話ししていただきます。特に学部3年生と修士1年生は、今後のイベントや採用につながる情報も収集できるので、積極的に参加し、今後に活かしてください。いずれも就職システムで随時情報を更新しますので、ご確認ください。

日 程	参加予定企業	
12/4(木)	全日本空輸、東芝、京成電鉄	理解
12/6(土)	日清食品ホールディングス、加藤製作所、酒井重工業、スリーポンド、NSD、ミツバ、ジャノメ、オカモト、ソリトンシステムズ、エクシオグループ、千葉薬品 ほか	OC
12/11(木)	LIXIL、TDK、オリエンタルランド	理解
対 象	全学部全学年	
予 約	就職システムの支援行事予約	

★各企業詳細や実施場所・時間等は、就職システム及びメール配信をご確認ください。

OC：オープン・カンパニー(午前・午後で企業入れ替え)

理解：業界・職種・企業理解セミナー(午後のみ1社ずつ実施)

# 地域と学生がつながる「Co-展2025」 一倉斗研究室が今年も参加

Co-展2025  
フライヤー  
学生デザイン



詳細は  
コチラ



倉斗研の出店「ならしのみやげ」

10月5日(日)に、習志野市プラット習志野の多目的広場で、恒例の地域イベント「Co-展(こう展)『Co-でなくっちゃ』」が開催された。2017年から続くこの催しは、「やってみよう、を文化にする」を合言葉に、習志野かいわいの人々とデザイン科学科倉斗綾子研究室の学生が協働して行っているもので、今回はワーク

ショップや展示、飲食、物販、音楽など20組以上が出展した。

倉斗研究室は、毎年このイベントのイメージコピーやフライヤーデザインを地域メンバーと協議しながら制作し、今年も会場マップのデザインやInstagramでの広報活動を学生が主体となって行った。また、ジモトの魅力を“おみやげ”を通

して発信する「ならしのみやげ」のセレクトショップや、まちの魅力を共有するマップワークショップを展開、学生らは来場者との交流を通じて、自らの研究テーマや活動を地域社会と結びつける貴重な機会となったようだ。

秋晴れの空の下、来場者は公園の中でゆったりと展示や買い物を楽しみ、卒業生たちが近況を語り合う姿も見られた。世代や立場を超えて人々がつながるこの「Co-展」は、まちと大学が共に育む“やってみよう”的文化を今年も鮮やかに描き出した。



会場の様子\_千葉工大卒業生が集まる



佐々木陽加さん  
(大学院修士課程2年)

お客様、裏方側、出展者側の三つの立場から関わることで、多様な視点を得られた。地域の方々とのご縁を結ぶ力が、これから的人生の糧になると感じた

神宮蘭さん(4年)

卒業研究の一環として「場の一体感の醸成」をテーマに社会実験的な取り組みを実施し、自分の“やってみたい”が形になり、温かい環境に改めて感謝している

清水太輔さん(3年)

初めての参加でフライヤーデザインを担当し、先輩方の流れを大切にしつつ、自分たちらしさを模索するのは難しかったが、とてもやりがいのある経験だった

## 津田沼ハロウィンパーティー2025に本学も協力

### デザイン科学科の作品展示やチバニー登場で地域イベントを盛り上げる

10月25日・26日の2日間、「津田沼ハロウィンパーティー2025」が津田沼駅周辺で開催された。

駅周辺の大型商業施設など全7か所を巡る「ハロウィンお菓子ラリー」には、多くの子どもたちが仮装して参加。スタンプカードを手に各所を回り、2日間で約4,500名がゴールを達成した。

ほかにも、キャラクターグリーティングや

仮装ワークショップなど多彩な企画が行われ、街全体がハロウィンムード一色に。

本学からは、デザイン科学科が制作したカボチャのオブジェをイオンモール津田沼店に展示し、会場の装飾に協力した他、習志野市のご当地キャラクター「ナラシド」や千葉県PRキャラクター「チーバくん」など、地域ゆかりのキャラクターが一堂に会したキャラクターイベントに本学公

式キャラクター「チバニー」も登場。子どもたちとふれあいながらイベントを大いに盛り上げた。



## 10月のできごと

- 10月2日～ 業界・職種・企業理解セミナー(～12/11)
- 10月2日 実験動物慰霊祭
- 10月5日 寮祭「Mix」(新習志野)
- 10月7日 モンゴルへiPad寄贈
- 10月9日 ハワイ島郡長来学
- 10月10日 『BOTAN』国際宇宙ステーション(ISS)からの放出
- 10月11日、12日 総合型(創造)選抜入試
- 10月15日 台湾・国立成功大学 講演会
- 10月19日 スポーツフェスティバル
- 10月25日 クリーンウォーク
- 10月25日 後期公開講座・英文学教養講座
- 10月28日 合同企業説明会(2026年度卒業生対象)

## 12月のスケジュール

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
後期・秋学期授業終了						冬期休業期間(～1月7日)
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			